

令和7年度 目黒日本大学高等学校（通信制課程） 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

本学園の建学の精神である「質実剛健・優美高雅」、また、教育理念「しなやかな強さを持った自立できる人間を育てる」を基として、「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び「自主創造」を教育方針に反映させ、付属校として「日本大学」の名にふさわしい学園づくりを実施し、生徒一人ひとりの個性を磨き込み、時代に流されない人間力と知性を併せ持った、輝く人材を育成する。

〔本校の特長〕

本校では、通常授業や探究学習をはじめとする諸教育活動において、自ら考え、自分なりの答えを導き出し、その考えをアウトプットする活動を重視することにより、将来のキャリアを自ら切り拓く力を育成する。高等学校通信制課程においては、3つのクラス（アドバンスクラス、スタンダードクラス、芸能スポーツプロフェッショナルクラス）をそれぞれ設置し、生徒一人ひとりの目標に合わせた教育を実施している。

日本大学との高大連携事業では、法学部・経済学部・商学部・生物資源科学部における科目等履修生制度への参加や、日本大学の学部長によるシンポジウムを実施することで、生徒のキャリア育成に寄与する教育活動を展開している。

いずれの課程においても、「目黒日大ルーブリック」を活用し、本校生徒として身につけるべき姿勢と力を明確に示すことで、生徒の人間力育成に力を注いでいる。

〔本校の課題〕

- ・「未来の目黒日大プロジェクト」と冠する教職員ミーティングを実施し、不確実性の高まる時代における学校教育のあるべき姿を模索しつつ、本校の教育活動の見直しとブラッシュアップを実行していく。
- ・SNSを活用した、受験生やその保護者へのタイムリーな情報発信サービスを徹底する。
- ・生徒会指導部による、地域との共生に関し、主体的かつ共生的な地域活動の機会創出を推進する。

令和7年度の取組結果

〔概況〕

・高等学校通信制課程

「学校らしい通信制課程」の実現を目指し、ここ数年にわたり推進してきた様々な改革が、令和7年度において大きく結実したと評価できる。

特に、アドバンスクラスを軸とした学校運営および広報戦略の転換は顕著な成果をもたらした。その結果、令和8年度入学の高校1年生からアドバンス3クラス体制の導入が決定した。この動きは単なる生徒数の増加にとどまらず、進学意欲が高く、学校行事にも積極的に参加するアドバンスクラスの生徒が、通信制課程における教育活動の中核を担う存在として定着しつつあることを示している。今後は部活動や生徒会活動においても、同クラスの生徒が中心的役割を果たすことが期待される。

また、アドバンスクラスの人気の高まりに伴い、転入生の増加やスタンダードクラスへのスライド入学も進み、学校全体に活気が生まれている。この傾向は、普段のスクーリングや授業の参加率向上だけでなく、部活動や宿泊行事にも表れており、2年ぶりに実施した沖縄研修旅行では、参加者が約30%増加し、約200名に達した。

さらに、通信制の特性を戦略的に活用した教育体制の成果として、日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストによる日本大学合格者数が増加し、大学進学率も全国の通信制課程の平均を大きく上回る高水準であった。これらの実績は、今後の教育活動に対する大きな自信につながるものである。

一方で、近年、日本全体において通信制高校の退学者数が増加傾向にあることは看過できない課題である。

本校においても、数年前と比較して退学者数はやや増加しており、より一層の対応が求められる。今後は退学理由の組織的な共有を徹底するとともに、担任のみならず複数の教員による支援体制を強化し、生徒一人ひとりに対するきめ細やかなフォローを実現していく必要がある。

教育活動

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
新学習指導要領への対応	本校生徒としてのあるべき姿を示す「目黒日大ルーブリック」を本格実施し、各行事をはじめとする校内の諸教育活動にて目標とすべきルーブリック数値を設定することで、それぞれの教育活動における育成テーマの明確化を図った。また年度末におけるルーブリックアンケートの結果は、ほぼすべての項目において全学年数値が向上しており、これまで数値で測ることができなかった「非認知能力」の成長を促すことができた。	A
高大連携事業	高等学校2学年では、日本大学各学部・学科を生徒が訪問し、専門分野に関する個別レクチャーを受ける取り組みを実施した。また、日本大学法学部・経済学部・商学部・生物資源科学部における科目等履修生制度へ参加し、高校在学中に大学の単位修得を実現した。 その他、日本大学の4つの学部（法学部・国際関係学部・スポーツ科学部・生産工学部）の学部長によるシンポジウムを実施し、生徒のキャリア育成に寄与するなど、全校にて積極的な高大連携事業を推進することができた。	A
学力向上・定着	各教科と連携し、模試や基礎学力到達度テストの過去問を定期的に繰り返し、特別講習などを実施することにより、4月以降の模試や基礎学力到達度テストに向けて意識を高め、学習習慣を定着させるよう努めた。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

学校生活への配慮

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ体罰（暴言・暴力）防止のための取組	生徒指導部、生徒支援室、いじめ防止対策委員会との連携を強化し、年に2回「いじめ防止アンケート」を実施した。また、いじめ防止リーフレットの配布、目黒警察署による SNS 関連の講演会など、生徒間の適切なコミュニケーションを促進させるプログラムを実施した。	A
教職員の統一的な指導	教員全員参加の研修会を、年に3回実施（進路指導研修、生徒指導研修、入試広報研修）し、各テーマに対する教員としての研鑽を積むことができた。また、「未来の目黒日大プロジェクト」と称する本校の今後を考えるプロジェクトも昨年度に引き続き実施した。	B
生徒への価値観指導	本校生徒としてのあるべき姿を示す「目黒日大ルーブリック」を本格実施し、各行事をはじめとする校内の諸教育活動にて目標とすべきルーブリック数値を設定することで、それぞれの教育活動における育成テーマの明確化を図った。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

課外活動

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動加入率 【目標数値 20%】	17%の加入率となり、ある程度目標を達成することができた。	B
生徒会の活性化	行事や説明会などに積極的に参加し、生徒会選挙の立候補者が増加するなど、より活気を示している。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

進路指導

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学への進学者数（72名）は伸びたが、目標の達成には至らなかった。	B
難関大への合格者数の増加に向けた取り組み	全日制をも上回る早慶の合格（8名）を得るなど、特筆すべき生徒が多かった。	A
大学進学率・進学率に向けた取り組み	大学進学率は、10ポイントほど低下した。引き続き、全国的な通信制課程の大学進学率を大幅に上回るものの、来年度はこの点に注力したい。	C

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

保健衛生

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
安全教育の徹底	学校安全計画並びに学校保健計画を作成するとともに、「ほけんだより」や「生徒支援室だより」を定期的に発行したことにより、安全教育に関する周知徹底を図ることができた。	A
安心な環境の確立	教育相談委員会、保健衛生部を核とした学年との連携は、定例会を通じて図られた。また安全衛生委員会とも連携し、感染症対策に対しても迅速に検討し実施された。	A
安全教育の研究	普通救命救急講習及び熱中症予防研修、いじめ防止アンケートの実施について計画通り行うことができた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

図書・情報管理

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
読書活動の推進	図書館（読書環境、学習環境）に関しては、生徒の読書活動を推進してきたが、今年度も本の貸出冊数が減ってしまったことが最大の反省点である。一方、放課後の利用者数が微増、電子図書の貸出数が大幅に増えた点は良かった。	B
インフラ整備	通信制教室の電子黒板のリニューアルやスマートボードの購入など、着実にICT環境の整備に取り組んでいる。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

入試広報

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
新入生数の増加	挑戦目標（190名）を大きく上回る結果（229名）を出した。	A
広報活動の質向上	昨年度に続き、生徒会とのタイアップで実施した学校説明会は大いに評価できる。	A
転入生数の確保	昨年度に続き、100名を超える転入生を確保した。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和8年度の改善取組項目及び方策

教育活動

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
高大接続改革	これまでの高大連携事業を継続させつつ、生徒と時代のニーズに合わせた教育活動を展開していく。	5月と8月に生徒が大学を訪問し、大学の先生方からの直接のレクチャーを受ける。
学力向上	① 教科主任の先生方を中心に、各教科会で学力向上に向けた授業方法や、指導方法、その他、新たな施策を検討し、制度作りを実施する。 ② 外部研修会への積極的な参加と、各教科での報告会の実施を徹底する。 ③ 授業見学の受け入れ。	① 月に1度の定例教科会にて実施する。 ② 主に夏休み期間における、予備校等の開催する指導法セミナー等を活用する。 ③ 期間は設けないが受験生・保護者のニーズに応える。

学校生活への配慮

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
生徒への価値観指導	① 規範意識・SNS アンケートを実施し、自分自身の SNS や規範意識に関するリスク管理や意識の度合いを10段階で評価する。 ② 外部講師もしくは本校教員による SNS 講話を実施する。	① 年間で2～3回実施する。 ② 2学期末に実施予定。
教職員の統一的な指導	① 方針や指導基準を揃えるため、内規や生徒手帳、Classi 配信で共通化を図る。 ② 情報共有をシステム化し、短く・こまめに記録を Classi 等へ残すことを徹底する。 ③ 指導スタイルの違いを調整すべく、一人ですべてやるのではなく、「指導が厳しい先生と、生徒に寄り添う先生」をペアにするなど、状況に応じて役割を「分担」する。	それぞれ日々の業務として随時実施する。

保護者への周知、 生徒の規範意識向上	保護者が不安になるのは「学校の方針や子どもの様子が分からない」ときが多い傾向にあるため、学校側から積極的に情報を伝えていくことで、信頼度を高める。 ① 目的の共有を図るべく、「子どもの成長を一緒に支える」という共通ゴールを持つ。 ② デジタルツールを活用し、Classiを活用して、保護者へのお願いや注意喚起、アンケート結果の共有など情報をこまめに発信する。	随時実施
-----------------------	--	------

課外活動

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
生徒会活動の活性化	生徒会を中心に、様々な行事や説明会などに生徒を関わらせる。	
高大連携	法学部・経済学部・商学部・生物資源科学部などにおける科目等履修生制度へ参加、日本大学 16 学部の中からこれまで登壇されていない4つの学部（経済学部・危機管理学部・工学部・生物資源科学部）の学部長によるシンポジウム実施を継続し、より生徒の大学入学後のミスマッチを防止し知的好奇心を刺激するとともに、キャリアガイダンスの一助とする。	科目履修生については、年度末と年度当初に希望者を募り、前期科目と後期科目のそれぞれにおいて実施する。学部長シンポジウムは6月に実施。

進路指導

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者 数増加に向けた取組	① 各種講習による基礎学力の向上。 ② 高校1年時において、日本大学より講師を派遣してもらい、学部ごとの説明をしてもらうことで、日本大学や学部に関して理解を深める。 ③ 高校2年時においては、日本大学を訪問し、資料だけではわからない点を肌で感じることで、理解を深める。	各時期の講習や進路行事を通して通年で養っていく。
国公立・難関私大 合格者増加に向けた 取り組み	① 模試を実施し、その結果を対象として学年単位で検討を実施。学習改善の手がかりとする。 ② 夏期講習・冬期講習・春期講習に関しては、校内予備校「学び場」にて実施する。さらには、難関大学対策講習や総合型選抜対策、合宿等も生徒のニーズに合わせて実施する。	② 主に放課後の時間を利用して講習を実施し、各種講習や合宿については、長期休暇期間を利用して実施する。

保健衛生

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
安心な環境の確立	学校安全計画と学校保健計画の立案 ① 管理と教学が連携し危険個所の早期発見と早期改善を徹底し安全な環境整備にあたる。 ② 心身の健康に関する教育の実践と予防活動を推進する。	安全衛生委員会の定例会を行う。 保健衛生部会の定例会を行う。

安全教育の研究	① 本年度の対象教職員全員が普通救急救命講習を修了する。 ② 日本大学大学院文学研究科心理学専攻、日本大学文理学部心理学科からの実習生を受け入れ、公認心理師を目指す学生の支援と育成を実施する。 ③ 生徒カウンセリングをテーマにした、教員向けの講話または研修会を実施する。 ④ 生徒支援室だよりを発行する。	① 8月の長期休暇中に実施。 ② 6月及び11月にそれぞれの受け入れを実施する。 ③ 学期毎に予定されている教員研修のテーマとして実施する。 ④ 2か月に1回程度の発行。
---------	---	--

図書

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
読書活動の推進	① 探究活動との連携を図り、それぞれの学習に役立つ資料を充実させる。該当の生徒には、最低2冊以上、参考文献として書籍を活用することを指導する。 ② 教員の利用を増やすべく、各教科に「教科としての購入希望図書」を聞いて本を購入していく。また、教員にオススメ本を紹介してもらい、先生たちが見本となって図書館を利用することで、生徒の「向上心」を養う。	通年
ICTスキルの向上	① 探究活動やIP授業における発表だけでなく、通常授業においても電子黒板を効果的に活用する。 ② ICTスキルに関わる研修会を実施するとともに、授業に役立つスキルとしての「ブリタニカ・オンラインの活用方法」などについての教員研修会を実施する。 ③ 事務局と連携し、ICT環境の整備および情報リテラシーの向上を図る。具体的には、Teamsの活用やZoomでの授業、YouTube配信等の管理・運営を継続する。	② 全員参加1回、任意参加2回。

入試広報

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
募集定員の充足	① Webページのリニューアルを図り、SNS（MAツール、LP）の効果的利用を実現する。 ② イベントごとの受験生動向を分析し、各種説明会における新規／リピート／学年の割合を必ず記録しておく。 ③ 説明会の充実を図るため、動画で基本情報の告知を行うとともに、入試解説を充実させて、アドバンスクラスの受験者数増加に取り組む。	年間行事スケジュールを確認し、入試概要、募集要項の作成を6月中に完了させる。

広報活動の質を高める	① Web ページの管理徹底とタイムリーなブログ、SNS を利用したマーケット戦略を実施する。 ② アナリティクス分析会（学期ごとに報告） ③ 各部活動で使用する SNS を利用し、イベントの告知など行う。 ④ 外部の情報交換会へ参加し、他校の広報の先生方との交流を通して、新たな施策を考案する。 ⑤ 学校説明会・個別相談において、在校生の発表の機会を増やすとともに、生徒の広報実行委員会の組織化を図ることで生徒主体のイベントをアピールする。	4月の運用から毎月振り返りと分析を行い、翌月に繋げる。また、各イベントの前後で情報共有し、少なくとも毎月の部会では志願者等の報告を行う。 その他、年間通して、他校のイベント状況を確認する。
-------------------	---	--

以 上